

果樹カメムシ類の発生情報について

本年は越冬数が多く、春の飛来は平年より早く多い傾向にありました。現在のところ特に大きな被害は認められていませんが、最近、予察灯への飛来数が増加傾向にありますので、注意していただくよう、発生状況をお知らせします。

記

1. 発生状況：

今年のチャバネアオカメムシの越冬数は平年に比べ多く、予察灯、フェロモントラップへの誘殺は、4月上旬より始まり平年より1ヶ月程度早かった。誘殺量は4月下旬より増加を始め5月上旬にピークとなり、その後は沈静化した。6月上旬より増加の傾向にある。

なお、春からチャバネアオカメムシだけでなく、ツヤアオカメムシも多い傾向にあり、特に、天草（本渡）では多発の傾向にある。

今後、落葉果樹およびカンキツ類の幼果～収穫期にかけて被害が予想される。

2. 防除対象作物：

ナシ、スモモ、モモ、ブドウ、カキ等の落葉果樹およびカンキツ類

3. 防除上注意すべき事項：

- (1) カメムシ類は飛来性害虫で地域によって発生量が異なるので、園内及び園周辺を見回り、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 特に成熟・着色の早い品種では集中的に加害される可能性があるので注意する。
- (3) 使用薬剤は、県または地域の防除基準に従い、使用回数、使用時期を遵守して農薬の安全使用に努める。